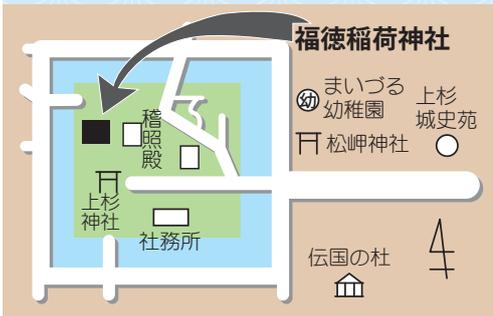


第14回

ふくとくいなりじんじゃ  
福德稲荷神社  
(丸の内一丁目)



▶福德稲荷神社拜殿にある上杉鷹山自筆の社額(複製)



新年あけましておめでとございませう。  
今回は上杉神社の右裏にある福德稲荷神社を紹介いたします。霊験あらたかな白狐伝説を伝える神社です。

当初は米沢城二の丸に創建

福德稲荷は、享保10年(1725)に二の丸にあったお寺の蔵王堂内に創建されました。6代藩主の上杉宗憲が、祥寿院(上杉吉憲の側室で、上杉宗憲・宗房・重定の生母)の願いを受け創建したもので、以後は米沢城の鎮守として信仰されました。

明治9年に上杉神社が米沢城本丸跡に建立された際、末社となり上杉神社境内に移され、同時に上杉鷹山が深く信仰した三の丸稲荷を合祀しました。社前の石灯籠一対は明治12年に奉納されたものです。

大正8年の米沢大火では上杉神社や伯爵邸も類焼しましたが、福德稲荷だけは火災を免れ、その霊験が注目されました。その後、稲荷講中によって社殿が整備され現在に至っています。

右近・左近の白狐伝説

福德稲荷には、次のような白狐の伝説が残っています。

時は元文5年(1740)、幕府から7代藩主宗房に鶴が贈られました。米沢藩は直ちに請書を認め飛脚に渡ししました。その後、御祐筆所に清書が残っ

ていたことが判明、誤って下書きを送ってしまったと大騒ぎとなりました。

この大事に頼られたのが、飯綱の修法<sup>ほう</sup>を会得していた城代の岩井大善です。岩井は城内に住む右近・左近と呼ばれていた白狐二匹のうち一匹に、本物の請書を入れた御状箱を託しました。白狐はたちまち走り去り、その晩には箱を首にかけ戻ってきましたが、既に息絶えていました。そして、不思議なことに箱の中には下書きが入っていて、藩の大失態は免れたといわれています。

白狐の遺骸は岩井の願いにより櫃に納められ、稲荷社に合祀されたと伝えられています。

神宝の鷹山自筆の社額

福德稲荷には、鷹山が三の丸稲荷に奉納した「正一位稲荷大明神」の社額が残り、神宝となっています。鷹山は隠居後に住んだ餐霞館の東北隅(鬼門)に稲荷社を創建、自ら筆を執り、得意の篆書で下書きし、木彫の社額を納めたのです。現在は、上杉神社の宝物殿に保管され、複製が拜殿内に掲げられており、鷹山の見事な筆づかいが見られます。

\*飯綱の修法

イヌナ(イタチ科の動物)や狐を使う呪術。長野県の飯綱山が本拠で、上杉謙信や武田信玄も神として信仰し、忍者にも信仰された。謙信の甲冑で特に有名なものは、狐にのった烏天狗姿の飯綱明神を前立とする甲冑で、上杉神社の稲照殿に展示されている。

『白猿の初詣』 制作者の島貫さんからコメントをいただきました。

白猿がお地蔵様に初詣に来て、遊んでいる様子を表現しました。一つ一つのひょうたんの形を活かしながら着色し、モールなどで加工しました。天然記念物の白猿を市民の皆さんが大切にしている気持ちと、人と猿が仲良く共存できたら、という願いを込めて制作しました。



表紙解説